



実践団体情報

記入日	2021年1月15日（2020年度のチャレンジプラン）
実践団体名	ガールスカウト東京都第172団
代表者名	北崎 裕紀子
プラン全体のタイトル 内容を端的に示し、中身を見たくなるタイトルをつけてください。計画時のタイトルと同じである必要はありません	そなえよつねに！ガールスカウトのチカラで防災ポーチとヘルプマークを広めよう！
電話番号	090-6701-1776
メールアドレス	midori.k0811@nifty.com
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	当団は、宗教や事業者などの母体を持たないガールスカウト団体である。現在小学生から高校生までのスカウト約20人とその指導者、保護者など約40人で、月2回の野外活動やボランティア活動に取り組んでいる。ガールスカウト活動は、スカウト自身がPDCAサイクルを実施し大人が支援することが特徴である。当団は、連盟だけでなく社会福祉協議会、環境団体、商店会などと連携してスカウトが地域でSDGs活動を活発に進めていることが特徴である。
所属メンバー 団体のメンバーについてお名前やご所属、役割などを差し支えない範囲で書いてください	団委員長 北崎裕紀子 高校生部門指導者2名 他部門指導者3名 高校生スカウト4名 小中スカウト15名
活動地域	東京都練馬区他
活動開始時期・結成時期	1980年発団
過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴（チャレンジプラン以外も含む）をご記入ください	2018年 ガールスカウト日本連盟主催コミュニティアクションチャレンジ コミュニティアクション賞（銀賞）受賞「ヘルプマークを広めよう！」 2020年 ・脱炭素チャレンジプラン2020 ニトリ最優秀夢・未来賞受賞「ガールスカウトのチカラでみどりを守る人を増やそう！」 ・ガールスカウト日本連盟 活動賞受賞



プラン全体の概要	<p>2018年に、中学生だったスカウトたちが、ガールスカウト連盟の防災教育の実施例集にある、通学や外出時の災害に備えていつでも防災品を持ち歩く「防災ポーチ」の集会を企画、実施した。東京は電車通勤・通学が多く、女性は化粧品や衛生品をポーチに入れて持ち歩くので、必要性も高く取り入れやすい活防災活動だ。一方、彼女たちはヘルプマークを広報する活動で受賞した。</p> <p>2019年、受賞後の展開としてヘルプマークを持つ人に貢献するよう「防災ポーチ」を安価な商品にして地域で販売し収益を福祉団体に寄付する活動を企画した。「寄付付き商品」としてヘルプマークの広報と防災ポーチの普及活動を兼ねる活動である。中学生スカウトが小学生スカウトや保護者を上手に巻き込んで2回のお祭りで100個のポーチを販売し、寄付をした。</p> <p>2020年、スカウトが高校生に進級した。女子高校生が、災害時の多様性への配慮などを学びながら発信し、地域の防災意識の向上、災害の軽減につなげることを目的として活動をした。男女参画センターを訪問し、多様性に配慮した避難所の在り方を学んだ。また、スカウトが日本連盟のプロジェクトの一員として内閣府の第5次男女参画基本計画の防災章のパブコメを発信した。その学びから2020年度の防災ポーチに女性の災害後の安全のためにホイッスルを入れて、その意味を書いた防災カードを新たに作って20個販売した。防止ポーチの普及活動を主軸に、スカウトが様々な活動を実施したので、下記のようにまとめた。</p> <p>A：団内の活動 B：ガールスカウト連盟の活動 C：地域活動 D：外部団体の活動参加 E：スカウト通学先との連携</p>
----------	--



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	防災ポーチの見直し A	スカウト打ち合わせ	リモート集会
5月	在宅避難時の食事 A	スカウト打ち合わせ	毎日記録、考察発信
7月	防災教育講座受講 D	エントリー	スカウト受講
8月	練馬区えーる訪問 A 公衆電話集会 A 社協ボランティア D K区スカウトと会議 B ポスター、カード作製 E 日本連盟事業 B	センターと打ち合わせ スカウト打ち合わせ エントリー、打ち合わせ スカウトが事前訪問 スカウトが打ち合わせ スカウトがPJ参加	避難所と男女参画を学ぶ スカウト企画集会実施 防護服作製寄付、社協訪問 リモート会議実施 完成、チラシへ展開 男女参画パブコメ発信
9月	防災ポーチ販売 C 防護服寄付 C 練馬区社協防災会議 C	他団体調整、事前広報 高齢者施設へ提案	スカウト企画、20個販売 10セット寄付 責任者参加
10月	防災公園集会 A 日本連盟事業 B	実踏・公園打ち合わせ スカウトがPJ参加	小学生スカウト参加 リモートイベントで発信
11月	救急法集会 A こども新聞発行 C ロングウォーク A	指導者で打ち合わせ 他団体と打ち合わせ 実踏4回、打ち合わせ	小・中学生スカウト参加 2,000部発行 約25キロ完歩
12月	地域広報活動 C コンテスト受賞式 E 東京都連盟事業 B	スカウトと打ち合わせ 学校に許可頂く スカウトが企画書提出	社協、商店訪問 首都圏ブロック賞プレゼン リモートで発信
1月	広報活動 C		商店にチラシ配置
2月	防護服・公衆電話集会 A	スカウトが企画計画	スカウト企画

プラン全体の反省点・課題・感想	スカウトが機会を逃さず、連盟や地域で積極的に活動した。指導者が小中学生スカウト向け防災集会を実施した。緊急事態宣言で高校生が指導者になる集会を開けなかった。
今後の活動予定	地域・連盟で防災ポーチの普及や多様性に配慮した防災活動を続ける。高校生から中学生小学生へ活動を継承する。



フォームへのご意見 (1 団体あたり 1 回だけ記入する内容です)

<p>★このフォームは書きやすかったですか？ わかりにくいところ, 改善すべき点などあれば教えてください</p>	<p>実践したプランと内容と成果を書くことが難しかった。どのような手順を踏んで実施したかを書く欄と他の団体が実施できるような準備や補足を書く欄を分けて書けるようにするとわかりやすいと思った。 特にガールスカウトは、スカウト自身が活動を企画し計画実施振り返りまでを行うので、この報告書を見て、他の団体が実践できるような事例として書くには私の表現力が足りず、申し訳ない気持ちだった。</p>
--	---